

令和5年度 いのちの授業 事例集（中学校）【特別活動】

掲載数

67

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中複合	特別活動	防災教育 「災害時における中学生の役割について」	「生徒、家庭、地域、学校が協力してお互いの命を守ることができる防災訓練や体制づくり」をねらいとし、全校生徒で震災避難訓練を行った後、3学年は消防署職員の方の指導のもと避難所開設訓練（仮設トイレ組み立て訓練・消火器訓練・起震車体験）を行い、1・2学年は区の危機管理担当の方から「災害時における中学生の役割と過去の活躍例」の講義をいただいた。地域のために自分たちにできることは何かを真剣に考える姿が多かった。	全学年の特別活動の中で区役所や川崎消防署から職員の方をお招きし、学年に分かれ、講演や訓練を行った。 （参考資料）講師の方から配布された資料
2 川崎市	中複合	特別活動	防災学習 「火事からいのちを守る」	火災のとき、速やかに学校の校庭や体育館などの安全な場所へ避難することが最優先となる。消火体験を行い、実際に起こった場合を想定し、その時の行動を考えることができた。一次消火のための水消火器の訓練を代表生徒が行い、火災が大きくなるための迅速な行動が必要なことを学んだ。普段の生活の中でも、人のいのちを救うために自分たちに何ができるか考え出した生徒もいた。	講師は、消防署の職員。 水消火器を使った訓練をすることで、具体的なイメージがもてた。
3 川崎市	中複合	特別活動	自殺予防	川崎市で取り組んだ「SOSの出し方、受け止め方教育」を学校内の実態を踏まえて、学年ごとにアレンジした。 誰かに話すときのポイントや身近な相談できる人について考えた。	ストレスとその解消法 （中学生／高校生編）
4 川崎市	中3	特別活動	性について	生に関すること…出産のメカニズム、赤ちゃんの特徴、周りの大人に見守られて育ってきたこと、赤ちゃん人形の抱っこ体験。 性に関すること…ホルモンでみる中学生期の特徴、デートDV、自画撮り被害、性的マイノリティ。 講師として助産師さん、保健師さんをお呼びして授業を行った。本校を卒業し、様々な進路に進む生徒たちが、正しい「性」に関する知識をもつことで、生涯において、自分のことを自分で守り、相手の事を思いやる態度を養うことを目的とした。	講師：助産師、中原区役地域支援課保健師 配布物：妊娠SOSのチラシ、STIパンフレット

5	川崎市	中3	特別活動	生と性を考えよう	<p>命の誕生には気が遠くなるような奇跡が必要であり、ひとりひとりがかけがえのない命を持っていることをはじめに伝えた。そして、あなたの誕生を必ず誰かが喜び祝福したこと、みんな周りの人に希望を与えて生まれてきたのだということを考えた。後半では、尊い命を持つ人同士、「いのちを大切にすること」とはどういうことを具体的に考えるため、性感染症やデートDVを取り上げた。自分自身を尊重すること、相手を尊重することどちらも大切であると伝えた。最後に、これから先つらいことがあった時、助けを求めることを諦めないでほしいと伝えた。授業後には感想を記入し、「自分と相手を尊重できるような人生にしたい」「奇跡の連続で生まれてきた命を、大切につないでいける大人になりたい」等の振り返りができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭による授業</li> <li>・参考資料：中原区みまもり支援センター資料、厚生労働省資料、助産師会資料</li> </ul>
6	川崎市	中2	特別活動	性の多様性を理解しよう	<p>近年、性的マイノリティへの関心・問題意識が広まりつつあります。本校においては、女子の制服にスラックス着用を始めたり、性別にとらわれない髪型で生活する生徒が増えている一方で、生徒同士の会話には、「男・女なのに」「ホモ・レズ」といった侮辱的な言葉が出てくることがあった。初めに、性の4つの分類について知り、次に『男性としていきたいと願う中学生』という動画を視聴した。動画の主人公は周囲の理解が乏しく「死にたい」と思うことがあったということから、社会で言われる男らしさ、女らしさが人を苦しめていることを理解した。授業の発言やワークシートの記述からは、性の多様性を理解し、自分の行動や発言をすることが大切であると考えを深めた生徒がほとんどであった。この学習を通して、今後、よりよい人間関係を形成できるようになってほしい。</p>	<p>認定NPO法人ReBit「多様な性って何だろう」など視聴</p>
7	川崎市	中2	特別活動	成長期の食生活	<p>生徒の給食の残量を見ると、献立により残量の差があり、好みがはっきりと表れていた。また、給食を残す生徒は全体の50.9%の回答があった。個々に見ると偏食や少食などの課題がある生徒がいることがわかった。本授業を通して、生徒には活動量や体格の個人差が大きい中で、それぞれが成長途中にあることを実感し、自分たちに必要な栄養量を理解して食べる必要があることを感じさせ、これからの食生活をより良いものにしようとする意識を育てることができた。</p>	<p>はるひ野中栄養職員</p>
8	相模原市	中複合	特別活動	心の変化やストレスについて	<p>&lt;講演内容&gt; 「ストレス」とは何かを、スクールカウンセラーの立場から説明していただいた。また、ストレスからどのような不調につながっていくかやそのストレスを対処するためにどのようなことをしているかを、受講者に事前にとったアンケートと照らし合わせながら紹介していただいた。また、「客観的に自分をみる」という考え方やリラックスできる呼吸法を学んだ。</p>	<p>講師：スクールカウンセラー 学年：中1・2年生</p>
9	相模原市	中複合	特別活動	いじめ0プロジェクト	<p>生徒一人ひとりがいじめについて考え、「いじめている君へ」「いじめを見ている君へ」「いじめられている君へ」の中からテーマを選び、メッセージを書いた。その中から、代表作品を委員会生徒が選び、顔写真付きで掲示物を作成し、校内に掲示した。生徒はいじめを自分事と捉えられるようになり、保護者からは「学校全体にいじめ防止の掲示物があり、安心できる」という声をいただいている。</p>	<p>校内だけでなく、学区の小学校にも掲示をお願いしている。</p>

10	相模原市	中3	特別活動	防災教育 「巨大地震や大雨などの災害対策について考える」	今後、日本で起こるであろうとされている大地震の被害について、実際に映像を見た。CGなどでリアリティを持たせて再現されていたこともあり、その被害の大きさに驚く生徒が多かった。災害直後だけでなく、しばらく経ってからも人々の暮らしや日本全体にもその影響が及ぶことを、資料で学習した。被災した地域のみならず、日本全体が「不況」に陥るといった状況を深刻に捉える様子が見られた。最後にワークシートに「自助」「共助」「公助」について自分の考えを記入させ、中学生として地域などでできることを話し合させた。生徒は、自分たちが、守られるだけでなく守る立場にもなれることを実感していた。	VTR『南海トラフ大地震～そのとき何が起こるのか？～』を視聴
11	相模原市	中1	特別活動	思春期出前講座 「・命のはじまり、つながりについて・思春期のこころとからだの変化・思春期を過ごすときのアドバイス」	中学生になって、自分自身の体の変化に気が付く時期になり、それに伴う心の変化に葛藤する生徒の為に、思春期という成長段階であることを理解させ、通常の変化であることを認識させるために、保健師の先生を招聘し、講演をしていただいた。 生命の誕生の仕組みから、成長していく過程をわかりやすく説明していただき、中学生という時期に心と体に変化が現れること、思春期の問題点や、乗り越える方法などを具体例を示しながら解説していただいた。 最後に思春期の生活のアドバイスをいただき、反省をして講座を終えた。	講師：保健師 学年：中1
12	相模原市	中複合	特別活動	講演タイトル 「自分と相手を大切にすることを学んで？」	思春期に抱える悩みや現代の性に関する問題、恋人との付き合い方や親との関わりについて、LGBTQ、性感染症と避妊、また妊娠について医師として経験した事例を交えながら、自身の性や体を大切にすることを学んだ。内容は性的同意を含め、性についてスライドを使って幅広くお話しをしていただいた。	講師：産婦人科医 学年：中1～中3生徒 および保護者 オンラインでZOOMをつなぎ講演
13	相模原市	中2	特別活動	いのちのはなし	思春期出前講座として、性教育の時間に次の内容を中心に行った。 1 子育て支援センターの紹介 2 健康について（心・からだ・つながり） 3 いのちの始まり（卵・精子、妊娠周期、出産） 4 思春期の心と体（変化について、自分や相手の心と体を大切に、不安との向き合い方） 5 妊娠 出産 中絶 避妊について 6 相談窓口紹介	講師 子育て支援センター 保健師 加藤さん パワポを使用し、 体育館で講演会形式
14	相模原市	中3	特別活動	感染症講演会	講演会自体はこれから行うものですが、中2・中3と2年間を通して性教育を中心とした命の教育が出来ればと考えています。中学2年次に行った「いのちのはなし」の内容や性教育で行ったLGBTQやDV等もふまえて、社会へ出てからの自己防衛、また他の人を尊重するための基礎知識を講演内容として依頼しました。	講師 NPO法人より講師派遣 パワポを使用し、 体育館で講演会形式

15	相模原市	中複合	特別活動	抜き打ち避難訓練で判断力と防災意識の向上	生徒に事前に日程を告知しないで突然避難訓練を開始した。あえて昼休み中に行い近くに教員がいない状況から、生徒それぞれが自主的な判断のもと速やかに校庭に出た。集合時には、行動の迷いや間違った判断が自分の命に関わるという内容の講義を教員が行った。講義の後には消防署から借りてきた水消火器を使い、生徒の代表者が消火訓練を行った。	水消火器
16	相模原市	中3	特別活動	「自分の人生を大切に。自分らしく生きていくために。」	講演内容：現在、生徒たちは思春期の渦中にあり、様々な葛藤を抱える時期でもある。その中で、人との関係づくりに悩み、心とからだの変化に悩む姿が見られる。そこで、性に関する情報が氾濫する現代社会にあっても、性衝動を抑え、自らのからだを大切にすることで豊かな人生を送れるような力を講演を通して育む。 教室にて感想・振り返り用紙の記入を行った。	講師：東京医療保健大学教授
17	相模原市	中1	特別活動	性に関する指導「思春期出前授業」	ねらい：思春期の身体的・精神的特徴や性に対する正しい知識を知ると共に、命の大切さを再認識して自己肯定感を育てるきっかけを作る。 活動：南子育て支援センターから講師を招き「いのちのはなし」を講演してもらう。講演後にアンケートを実施する。	南子育て支援センター 保健師
18	相模原市	中2	特別活動	引き継がれる命	・生命誕生のしくみ (VTR) ・生命の連続性 (資料：いのちのバトン) ・不妊症治療, 10代の人工妊娠中絶報告数 (資料：悲しい現実もしておこう)	性教育 (学級活動)
19	相模原市	中3	特別活動	命の大切さを学ぶ教室	中学校3年間の総まとめとして「性」を「命」の視点から振り返り、「生きる」とは何か、これから自分はどう生きるかを考える。	神奈川被害者支援センターより講師の先生2名 (神奈川県警委託事業)
20	相模原市	中1	特別活動	思春期の心とからだ	中学1年生を対象に、思春期出前講座として緑子育て支援センターの方に講義をお願いした。二次性徴期の心とからだの変化を中心に、不安や不調にどう向き合っていけば良いかなどをお話しいただいた。	緑子育て支援センター
21	相模原市	中2	特別活動	生きるためのこころの健康	思春期講演会「いのちの話」として「生きるためのこころの健康について」というテーマのお話をいただいた。講師の専門性を活かし、妊娠・出産時の家族の気持ちや、胎内での胎児の様子、赤ちゃん人形の抱っこ体験を通して、自分の命はかけがえのないものであることを学んだ。また、思春期の心と身体の変化や、自分だけでなく相手の心と身体も大切であることを学び、将来のパートナーとのより良い人間関係についても考えられる内容であった。	講師は相模原市緑子育て支援センターの保健師1名

22	相模原市	中複合	特別活動	人権福祉	人権について考えた。障害を持っている方の困った事例から合理的配慮についてグループで考え、共有した。また、困っている方がいたときに自分自身で動くことができるかと考えた。	1・2・3学年
23	相模原市	中1	特別活動	思春期出前講座「命のはなし」	外部講師による講演会 ・いのちのはじまり、つながりについて ・思春期のこころと体の変化 ・思春期を過ごすときのアドバイス 生徒は真剣に話を聞き、振り返りをしていた。	講師 緑子育て支援センター 保健師
24	相模原市	中1	人間関係	命のはなし	思春期で気になる人間関係について、緑子育て支援センターの方をお呼びして講話をして頂いた。 1 命が生まれた瞬間 2 男子と女子の性について 3 他人との関わりについて 4 自分の命の大切さ 5 多様な情報から正確な情報を選ぶ大切さ	緑子育て支援センターの職員をお呼びした。パワポを使って説明していただいた。
25	相模原市	中1	人間関係	車イスバスケットボール体験	車イスバスケットボールの体験を通じて、他者を思いやる心、感謝する心、福祉への見方や考え方を深めることを目的とした。 基本動作を確認した。(前後左右、Uターン、ブレーキ) 5対5で対戦を行った。 最後に2人の選手から講話をして頂いた。車イスでも普通に生きていける。困っていたら助けてくれると嬉しい。など、日常生活に関する部分や、人権に関わる話をして頂いた。	車イスバスケットボールチーム 「相模フォース」から2名の選手にお越し頂いた。
26	横須賀市	中複合	特別活動	性の多様性(LBGTQ)と性的同意について	多様な性のあり方や、性的同意についてを具体的な例も交えつつ、自分らしく生きることの大切さや、いのちが生まれてくることの大切さについて、スライドを用いて講師が講演を行った。事後アンケートでは今後の性との関わり方や、LBGTQを含め多様な人たちとの付き合い方について考える様子がみられた。	助産師資格を持つ外部講師を招き全校生徒と希望する保護者を対象に、いのちの出前授業の一環として実施
27	横須賀市	中複合	特別活動	心の安全教室	はじめに、教員が「思春期の心の病の理解と対応」の研修を受けた。教員は思春期の特徴をふまえた対応やSOSのサインを学んだ。 その後「心の安全教室」の講演会を全校生徒を対象に行った。生徒は、思春期の傾向からどのような思考回路になりやすいかなどを実例をもとにしながら聞いた。 その後、書いた振り返りからは、多くの生徒が講義の内容をこれからの自身の生き方につなげようとする記述がみられた。	ヴィヒャルト千佳子様

28	横須賀市	中複合	特別活動	男女の適切な距離の取り方	横須賀市南保健福祉センターの講師が来校し、男女の身体の2次性徴による変化、気持ち・心の変化、パーソナルスペースの違い、体とこころの守り方、男女交際の適切な方法について専門家からの講義を受けた。その後、講義内容に関するクイズを行った。振り返りを行い、実際の場面でどのように振舞えばよいかを考えた。	横須賀市南保健福祉センターの保健師3名 1・2年生合同で実施
29	湘南三浦	中1	特別活動	いのちの教室	生命の安全教育の内容も取り入れていただき、いのちのはじまり、思春期のからだの変化、思春期の心の変化について講演をしていただいた。紙に針で穴を開けたものを配り、いのちの始まりの大きさやプライベートパーツについても話していただいた。また、事前アンケートについての話や、自分と相手の考え方は違うということ、レジリエンスについてふれていただいた。また、悩んだ時に相談する大切さについても、生徒が考えることができた。	鎌倉市役所市民健康課 保健師・助産師
30	湘南三浦	中2	特別活動	いのちの教室	～思春期のこころと性～をテーマに、思春期のからだの変化・こころの変化・思春期とのつきあいかたなどを知ることを目的に講演を行ってもらった。途中、事前アンケートに絡めながら回答や、プライベートゾーンやLGBTQ、SNSの話題にも触れ、生命の安全教育の内容も取り入れていただき、生徒たちが多角的なものの見方ができるよう配慮し、広い意味での「いのち」について考えさせることができた。	鎌倉市役所市民健康課 保健師・助産師
31	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育 「地震からいのちを守る」	災害（地震）の発生時や発生後に起こる事例に対して、適切な対応ができるよう4つの体験学習を設定した。 体験を通して、身を守る方法や他者を助ける方法について理解を深めた。 ①消火器取扱訓練・②濃煙体験・③簡易担架作成・④止血法体験を実施することで、災害時に自他のいのちを救うための行動を考えることができた。 普段の生活の中でも、自分たちに何ができるか考える機会を与えることができた。	講師は消防署の職員。 防災用のテキスト。 (参考資料) 藤沢市消防局からの実施内容テキスト 全学年実施
32	湘南三浦	中複合	特別活動	いのちの大切さを学ぶ教室	暴力を受けて亡くなった、10代の少年の話アニメ化したDVDを用い、少年を守ってあげることができなかった友人や母親の、後悔や苦しみについて知った。「少しの勇気と想像力が、自分や他人のいのちを大切にすることができる」ということを伝える内容だった。これまでの生徒のようすをふり返ると、自分の考えを伝えたり、相手のことを理解することが苦手な生徒が少なくない。集団生活において、「想像力」を養うことはとても重要である。また、さまざまな場面で、「行動する勇気」をもち人間関係のみならず、みんなが安心して生活できる学級・学年にするために自らが行動することの大切さを考えた。	講師：茅ヶ崎警察署 警務課 住民相談係、 かながわ県民センター 神奈川被害者支援センター職員 学年：1・2年生
33	湘南三浦	中2	特別活動	救命救急講習会	AEDの体験や心肺蘇生などの学習を通して、生命の尊さやそれを守ったり、助けたりしようとする意識を高めた。	
34	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育「神奈川SHAKE OUT」	今年に関東大震災100年目にあたり、より防災に対する意識を持って全校生徒一斉に、SHAKE OUT訓練を行った。いつ、どこで地震が発生したとしても、自ら判断していのちを守る行動が取れるよう学んだ。訓練の前に、プリントを使って頭を守る姿勢、日頃の備蓄についても改めて確認した。	

35	湘南三浦	中複合	特別活動	防災教育 「大地震の発生、避難訓練」	大津波警報が発令した時、自己の安全確保と避難方法を学習した。訓練の流れは、グラウンドに一次避難、その後、天候が悪化し南下浦中学校の校舎内に二次避難した。生徒達は避難経路を確認し、自己の安全について考えた。そして、児童・生徒は「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない」の約束を守り、私語なく、先生の指示を守り、避難することができた。	三浦市南下浦小学校との合同避難訓練 講師は、三浦市消防員
36	湘南三浦	中複合	特別活動	いじめを許さない学校づくり (生徒会)	「いじめを許さない学校づくり」の活動として、生徒会執行部が中心となって行った取り組み。執行部の生徒が「ピンクシャツ運動」について学習をし、学んだことを今度は自分たちが「教師役」になって各クラスで授業を行った。本校独自のピンクシャツのデザインをみんなで考え、美術部がデザイン化したTシャツを作成するなど、生徒が中心となって「いのち、互いを大切にする」をテーマに考え行動した。	生徒会執行部 全校生徒 美術部
37	湘南三浦	中複合	特別活動	防災学習 防災訓練	抜き打ちの防災訓練として地震避難訓練を行った。休み時間の生徒がバラバラに活動している時間帯の地震発生で、「自分の命を守る行動」について考え実践した。ふだんの防災学習の知識に加え、「教員が近くにいない場合」、「自分がケガをして動けない場合」などの動きを考える生徒の活動とともに、「少ない人数でいかに生徒の安全を確保するか」を考える教員の研修の機会ともなった。	講師として消防署職員 3名が来校。実践に対しての評価助言をいただいた
38	県央	中2	特別活動	自然災害から身を守る	大雨や雷、竜巻といった、身近な自然災害から身を守るための手段や方法などを、DVDの映像を活用しながら生徒たちに考えさせた。	
39	県央	中複合	特別活動	人権について考える	毎学期、人権について考える時間を設けており、12月は全クラスにて道徳の実施、各委員会から生徒向けの活動を計画実施する週間を設けた。(6月・2月には人権作文を紹介し、考える機会を持っている。)自分らしくいられる環境を作ることが、「生きること」すなわち「いのちを大切にすること」に繋がると知り、自らの行動を考え直すきっかけとなった。	・全学年実施 「世界人権宣言」「全国中学生人権作文コンテスト作品」など
40	県央	中1	特別活動	多様な性について	LGBTQ+という性の多様性について学んだ。多様な性における自分の大切さ、他人の大切さを知り、様々な思いを抱いて生きている人たちがいることを理解した。自他の存在を理解した上で互いを理解し受け止め、いのちを大切にすることができる社会を作っていくことを考えた。	
41	県央	中3	特別活動	命の尊さ、性感染症予防	病院で働く助産師から、実際の医療現場から見える「命の尊さ」について話してもらった。中学生にとっては自身が誕生してから親に大切に育ててもらったこと、これから親になったときに誕生した命を大切にしていかなければならないことを学んだ。また、性感染症の特徴と感染経路を知り、その予防について学んだ。	講師として助産師を招聘した。

42	県央	中1	特別活動	生命と性の健康教育	<p>体育館のスクリーンを活用し、講師の方の講演会を行った。内容は、赤ちゃんが生まれるまでの講演で赤ちゃんの人形を順番に抱き、命の重さを感じながら講演を聴いた。また、性的同意について、心理テストをしながら行い、生徒の理解を深めた。生徒の感想には、「私たちがここにいることがどれだけ奇跡であり、大切に理解した」や「自分が小さい頃にずっと抱っこしてきてくれた母に感謝したい」などと書かれており、講演を聴いた生徒は、自分がここまで育ってきたことについて考えることができた。</p>	講師は、昭和大学助産学専攻科および健康医療学部教授
43	県央	中1	特別活動	講演会 「命の大切さ」	<p>助産師さんから、赤ちゃんがお母さんのおなかの中でどのように成長していくかを説明された。すべての赤ちゃんが順調に産まれてこないことや、お母さんが苦しい思いをして産んでいることなどを知り、命の大切さを知る機会となった。また、暴力や暴言といったデートDVなどの事例を知り、自他の命を大切に思う気持ちを育てることにつながる機会となった。</p>	講師：伊勢原協同病院 助産師
44	県央	中1	特別活動	自分を大切にしよう～ストレス対処～	<p>生活の中で感じるストレスの概要について学び、生徒の間でストレスを感じてつらい気持ちになってしまったときにどのように対処しているかを伝え合うことで対処方法の幅を広げた。今後に向けてSOSの出し方、友達の相談に乗ったときの対応などの援助希求行動について考えた。</p>	学級担任による授業 (参考資料) 東京都教育委員会指導資料「SOSの出し方教育」
45	県央	中2	特別活動	対等な関係をつくらう	<p>対等な関係が、お互いの気持ちを素直に言葉で伝えられ、その相手の意思を尊重することであることを学んだ。また、相手を責めないアイメッセージを事例に沿って具体的に考え、共有をした。</p>	学級担任による授業
46	県央	中複合	特別活動	人権教育	<p>私たちを取り巻く人間関係において、人権感覚を研ぎ澄ますことが重要であり、道徳的題材を中心に各学級において「わたしたちを取り巻く人権」を見つめる取り組みを行った。いじめ・暴言に代表されるような人権侵害を許さない集団の醸成を目指した。学年の課題に即した話題や教材を準備し、全校一斉に取り組んだ。事後のまとめとして、人権に関する作文やポスター作成に取り組んだ。</p>	道徳資料 人権作文ポスター募集要項
47	県央	中複合	特別活動	人間関係づくり	<p>個性を認め、互いの得意分野を生かし「みんなで創り上げよう」を行事共通の柱として、全校のクラスが同一の課題に取り組む。 ①文化祭(合唱) 物語の進行(映像)に合わせて話し合い、クラステーマになるアイテムを3つに絞り込む ②運動会 クラスの実態に合わせたPAを実施後ビーイングに取り組む。 ①②とも行事に向かう目的が明確となり、一致団結した中で知恵を絞りながら工夫するとともに、苦手意識のある仲間への配慮もできていた。</p>	①9月に実施 ②10月に実施



48	県央	中2	特別活動	スマホ・携帯電話安全教育	身近になった携帯電話とのつきあい方を自分事として考え、情報モラルに対する意識を高める機会とした。 携帯電話のトラブルが増えがちな夏休みの前に実施することで、トラブルに巻き込まれるのを未然に防ぐ機会とした。	携帯電話会社社員
49	県央	中3	特別活動	性教育講演会	義務教育を終える前に、性に関する向き合い方を考えるきっかけとして専門家を招き、正しい知識を身につけ、学びを深めた。 『思春期セミナー』と称して、性的少数者、二次性徴に伴う悩み、デートDV・暴力、妊娠・中絶・避妊、月経困難、性感染症予防、子宮頸がん・HPVワクチンについての内容の話だった。	婦人科医師を招聘し、講演頂いた。
50	県央	中1	特別活動	自己尊重 他者理解	ホームレス問題に詳しい講師を迎えて、「ホームレス」襲撃事件をもとに、自尊感情を高めるための講演をしていただいた。生徒は、事前に講師がかかわった動画を見て、ホームレス問題について理解した。また、当日の講演を通して、今まで知らなかったことについて思いをめぐらせ、人の在り方、自分も相手も大切にすることについて深く考えて学ぶことができていた。感想文には、生きていること自体が幸せでその大切さを理解したなど、自分と他人を大事にする重要性について書いている生徒が多かった。	講師は、ホームレス問題の授業づくり全国ネット代表理事・ノンフィクションライター 県央教育事務所から、DVDをお借りして事前学習を行った
51	県央	中2	特別活動	平和教育	u n i c e f 協会に依頼し、「平和」をテーマに講演をしていただいた。講師は、貧困地域を中心に世界各国を訪れたことがあり、自身が実際に見たことを、自身がとった写真を見せながらお話して下さった。貧困地域、紛争地域の子供たちが、劣悪な環境の下、学校に通えずに労働を強いられる現状や、兵士として生きていかななくてはならない状況を知った。生徒たちは、恵まれた環境にいる自分たちが、まずは世界の現状を知る大切さを理解し、さらに、自分たちができることを考えようとしていた。	講師は、u n i c e f 協会に依頼。
52	県央	中1	特別活動	生命誕生と生命尊重	性的成熟を自覚し始めるこの時期に、生殖に関わる一連の過程を科学的に理解させ、生命の尊さを認識させる。 自分が誕生した過程と親や周囲の愛情を実感させることで、かけがえのない自分の生命を大切にするとともに、他人の命も大切にすることを理解させた。	DVD「精子と卵子が出会うまで」
53	中	中複合	特別活動	人権メッセージ	世界人権デー（12/10）、人権週間（12/4-12/10）にあわせて行われる平塚市の「人権メッセージ」の募集を受けて、全校生徒が作品作りに取り組むことで『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるようになる。 ことを目指し、人権について深く考える機会とする。	全学年 代表作を市に提出するとともに、校内にも優秀な作品を掲示する

54	中	中3	特別活動	思春期講座	<p>性感染症や妊娠・出産についての講話を頂いた後、「性感染症ゲーム」や「赤ちゃん抱っこ体験」などの体験を行った。はじめは、生徒たちは自分に関わりのあることだという認識は持ちつつも、実感を持ってずにいた様子だった。しかし、その体験後、理解が実感に変わっていったように思う。また、「赤ちゃん抱っこ体験」では下に弟妹のいる生徒がほかの生徒をリードするなど、教え合い、学び合う様子を見ることができた。将来、自分の身を守ったり大切な命を守るための知識を身に付けることができた。</p>	平塚市健康課の助産師、保健師より講師を迎えての講義・体験
55	中	中複合	特別活動	人権メッセージ	<p>12月4日～10日の人権週間に向けて、市で募集があった人権メッセージに全校生徒で取り組んだ。代表作は市に提出するとともに、校内で開催した人権集会で発表した。日頃から、自分を大切に、それと同時に他人も大切にすることを心掛けるためのきっかけになった。</p>	参考資料 神奈川県人権啓発ポスター
56	中	中複合	特別活動	防災学習 「自然災害から命を守ろう」	<p>防災訓練・引取訓練に伴い、全学年で防災学習に取り組んだ。1学年では、学校にいるときに地震が起きたときの危険性とそれに応じた対処法について、2学年では、外出しているときに地震が起きたときの危険性とそれに応じた対処法について、3学年では、災害に備えて家庭で準備しておくべきものや話し合っておくべきこと、地域の中で中学生としてやるべきことやできることについて学習した。</p>	(参考資料) 兵庫県教育委員会防災教育副読本「明日に生きる」
57	中	中2	特別活動	講演会 「ウィズユー講演会」	<p>講師のお話とアイリッシュハーブの演奏を通して、「優しいことば」「相手を受け入れるということ」「人にはそれぞれの生き方がある」「平和とは何だろう」などという問いかけについて考えることができ講演会を聴くことで、「人に優しくしようと思った」「ありがとうももっといっぱい伝えたい」「精一杯今を生きていきたい」など感じる生徒が多かった。</p>	アイリッシュハーブ奏者
58	中	中複合	特別活動	講演「いのちの大切さ」	<p>「生命誕生、いのちの大切さ」について講師を招き、講演会と赤ちゃん人形のだっこ体験を行った。誕生前から命は始まっていて、卵子と精子が1051兆2千億分の1という奇跡的な確率で受精し、受精卵は約280日が経過すると赤ちゃんとして誕生することや、赤ちゃんとお母さんをつなぐ胎盤とへその緒の働きなどを学んだ。最後に、生きていることが奇跡であるので、自身の心と体を大切にしてほしい、と伝えられた。生徒の感想として「今回の話を聞いて改めて自分の命も人の命も大切にしなければいけないと思った」などがあった。</p>	湘南大磯病院 看護 中学1～3年
59	中	中複合	特別活動	学校保健委員会	<p>前半は、地震のメカニズムや地震発生時の避難の仕方などについて、保健委員会の生徒が調べてまとめたものを発表し、大地震などの災害時、適切な行動で自分の命を守ることの大切さを全校生徒が共に学んだ。後半は、消防署でお借りしたAEDと心肺蘇生訓練人形を使って、心肺蘇生法の練習をした。生徒の感想には「もし何か起きたときに、その場で対応できるかを考えてちゃんと動けるようになりたい。」等、学んだことを生かしたいという気持ちが現れていた。</p>	中学1～3年

60	中	中複合	特別活動	交通安全教育	<p>時速40kmでの衝突等の交通事故や、自転車の危険な乗り方をスタントマンが実施し、生徒はグラウンドにてその様子を見学した。スタントマンが真に迫った演技で交通事故発生の具体的な状況を再現したため、見学した生徒は、交通事故の悲惨さ・恐ろしさを視覚的に理解することができた。刺激が強い、怖くて不安などの理由で実践を見ることが困難な生徒は別室で待機した。当日の下校や翌日の登校では「すごく気を付けて歩いた。」と話す生徒が多くいたので、「いのちを守る」ためにとる行動として、交通安全教育が活かされていると実感することができた。</p>	<p>神奈川県教育委員会 神奈川県トラック協会 複合学年：全学年対象</p>
61	県西	中複合	特別活動	防犯教育 「不審者から命を守る」	<p>校内に不審者が侵入した場合を想定し、安全かつ迅速な行動とその対処の仕方を学ぶため、防犯避難訓練を実施した。年度当初にも確認した暗号を各クラスで再度確認をし、講師の方に犯人役をやっていただいたことで緊張感を持った訓練を行うことができた。その後、実際に各クラスで侵入を防ぐためのバリケードを作成し、講師の方より講評をいただいた。自他の生命を守るためには、不審者を必要以上に刺激せず時間を稼いで応援を待つことの大切さを学び、それぞれが自分にできることは何か考えた。</p>	<p>講師 小田原警察署 スクールサポーター</p>
62	県西	中2	特別活動	命の大切さ	<p>自他の生命の大切さと、性を尊重していける生徒を育成することを目的に、小田原市立病院産婦人科の平吹先生より講話をいただいた。</p>	<p>対象学年：中2 講師：小田原市立病院 産婦人科 医師</p>
63	県西	中複合	特別活動	<p>①命の授業 「ドリー夢メーカーと今を生きる」 ②人権教育 「多様な生き方に関する講演会」 ③防災教育 「防犯訓練」</p>	<p>①「命の尊さ」、「生きていることの素晴らしさ」を伝える講演をしていただいた。生徒は、周りの人に感謝する心や自分自身がかけがえのない大切な存在であることを学んだ。事後アンケートでは、これからの生き方について前向きな感想を記入している生徒が多く見られた。 ②多様な生き方について講演をしていただいた。生徒は、様々な性の在り方を受け入れられる社会や心を育むことの大切さを学ぶとともに、質疑応答では活発なやりとりを行うことができていた。事後アンケートでは、講演に対する感謝や応援の他、LGBTQについてもっと学びたいと記入する生徒が多く見られた。 ③不審者が校内に侵入した想定で、防犯訓練を行った。「バリケードは作り方よりも、作ってあるという状況が大切である」という警察の指導のもと、生徒は教室でバリケードを作り、教職員は教室に不審者が行かないように説得する訓練を実施した。訓練後、警察の方に各教室を見ていただき、バリケードの評価をいただいた。生徒の危機管理意識の高まりを感じることができた。</p>	<p>全校で1時間講話 各学年1時間ずつ講話 小田原警察署防犯少年 係スクールサポーター 全学年一斉実施</p>
64	県西	中複合	特別活動	<p>①防災教育 「避難訓練 (火災想定)」 ②防災教育 「シェイクアウト訓練」</p>	<p>①理科室周辺から出火との想定で、避難訓練を行った。避難指示の放送の前に、各教室で火災発生時の避難方法、避難時の注意点などを確認した。校庭への避難、人数確認はスムーズに進み、ふざけたり騒いだりする生徒も見られなかった。 ②休み時間を使って、生徒に事前告知せず実施した。1年生は初めてなので多少の混乱は見られたが、帰りの学活で振り返りを行うことで、緊急時の行動を学ぶことができた。</p>	<p>防災担当職員を中心に 全職員で対応 全学年一斉実施 防災担当職員を中心に 全職員で対応 全学年一斉実施</p>

65	県西	中複合	特別活動	<p>・学校保健教育 「折れない心を 育てる“いのち の授業”」 ・かながわ い のちの授業大賞 作文コンクール</p>	<p>長期化するコロナ禍で「自分は誰からも必要とされない」というような心の苦しみを抱え、自他を傷つける児童・生徒が増えているとされている。生徒は講師の方のお話をもとに、自身の実際に経験した苦しみをお互いに共有して、苦しむ人を前に自分ができることについてワークシートを用いて考えることができた。他者を尊重し合い支えとなる関係を築くこと、苦しみを聴いてくれる存在が切れ目なく続くことが大切なことだと学んだ。授業後は、振り返りを行うことで、感じたこと・考えたこと・学んだことを深めた。また、「かながわ いのちの授業大賞 作文コンクール」に応募した。</p>	<p>講師は、心のケアについて詳しい「一般社団法人エンド・オブ・ライフケア協会」</p>
66	県西	中 1	特別活動	<p>防災教育 「防災訓練の心 がまえ」</p>	<p>避難訓練を行う前に、防災意識啓発のための動画「防災訓練の心がまえ」を生徒に視聴させた。動画の内容は、災害時に自分がとるべき避難行動を考えることの大切さを解説したもので、「なぜ避難訓練を行うのか」「避難する際に大切にしたいこと」などを自ら考え発表する活動を行った。その後の避難訓練では、生徒たちは、避難訓練前に確認したことや大切にすべきことなどを意識しながら行動する姿が見られた。</p>	<p>教材名：千葉県 防災意識高揚のための啓発動画「防災訓練の心がまえ」 複合学年：2年</p>
67	県西	中 2	特別活動	<p>性教育</p>	<p>1年次に行った性教育講演会をもとに発展させ今年度、「避妊について」、「胎児について」、「性について」考える授業を行った。今回の授業の前にアンケートを取り、アンケートの回答もふまて実施した。生徒たちは、自分事として捉え、実際に性に関する悩みをもった友だちに対して、どのような声かけをするかなど、具体的に考えた。</p>	<p>指導者：町保健センター職員（助産師2名）</p>